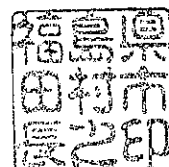


20田建第541号
平成20年10月16日

国土交通省 道路局長 様

福島県田村市長 富 塚 宥 暁



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありましたこのことについて、別紙のとおり提出いたします。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

福島県田村市

田村市は、福島県田村郡の旧4町1村が合併し、平成17年3月に新市「田村市」が誕生いたしました。5町村の合併により旧船引町を中心地としながらも、その他の各旧町村にも行政局及び公共施設を配置し、地域の個性を重視したクラスター型都市づくりを「まちづくり」の基本理念とし、各行政局を結ぶ交通ネットワークを整備し、地域間の連携・交流の促進を図ることの必要性が市民より強く求められております。

道路特定財源等に関する基本方針の中での「道路関連公益法人や道路整備関係の特別会計関連支出の無駄を徹底的に排除する」ことは無論のこと「必要と判断される道路は着実に整備する」ことは是非とも実施していただき、道庁特定財源の堅持をお願いする。

田村市の道路現状は、市道はもちろん、国・県道においても狭隘部も多く、主要通学路でも歩道の整備が遅れている箇所や、急カーブが連続する道路が多数あり、通勤・通学など日常生活における安全性や快適性、利便性など住民の生活環境の向上を図るため本市内の道路整備は緊急課題となっている。

特に道路整備で重要となっているのは、生活道路での人優先歩道の整備、幹線道路での事故多発箇所の対策、渋滞解消のためのバイパス整備が重要であります。

また、平成8年度より着手されております国道288号船引バイパス整備が当初の計画発表より大幅に遅れているため、早期完成を強く望みます。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ②

②-1 地域の現状と抱える課題

福島県田村市

○現状

市道、国、県道においても狭隘部も多く、主要通学路であっても歩道の整備が遅れている箇所や、急カーブが連続する道路が多数ある。

道路整備で重要となる生活道路での人優先歩道の整備、幹線道路での事故多発箇所の対策、渋滞解消のためのバイパス整備が大変遅れている。

高速ネットワークの効率的活用のためのスマートＩＣの設置による広域的な観光ルートづくりや産業振興、更には、３次救急医療施設への搬送時間の短縮を図る。

○課題

通勤・通学など日常生活における安全性や利便性などによる急カーブの解消、歩道の整備。

安全施設やバイパス整備

本年度中の４車線化に伴い早急なスマートＩＣの設置

②－２ 地域の目指すべき将来像

○広域的な連携・交流を促す道づくり

地域の個性を重視したクラスター型都市づくりを「まちづくり」の基本理念としての市内各地域間及び他地域の市町村、観光地、高速道路等の連携を強化することが重要であり、国、県道の整備を促進し、市道については、広域的な主要幹線道路のネットワーク軸の構成を重点に整備を進め、移動期間の短縮や快適な移動環境の形成により、本市の円滑な交通ネットワークの形成を図りながら、観光ルートづくりや産業の振興、救急医療への対応を図る。

○安全で安心な暮らしを支える道づくり

安全で安心できる暮らしを実現するために、台風・豪雨・地震等による大規模災害時における救急医療施設へのアクセスの確保及び救急救援ルートの確保により、大規模災害に対する安全性・信頼性の向上を図り、多重な安全性の高い道路ネットワークの構築により、地域の安全や暮らしを守る。また、冬期交通の確保については、積雪や路面凍結など冬期における交通傷害箇所の解消を図る道路の整備をする。

○思いやりをもった道づくり

少子・高齢化の急速な進展に伴い、高齢者や障害者を含むすべての人々が自立し、生き生きとした生活をおくるため、誰もが使いやすい道路を整備する。

○自然環境や景観と調和した道づくり

従来の機能性、安全性、経済性等に配慮することはもとより、地域の個性を生かしながら持続性、公共性、環境性を備え、周辺景観に配慮した道路の整備をする。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

福島県田村市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	・国道288号バイパス整備 ・スマートIC設置	・渋滞解消、事故多発箇所対策 ・観光ルートづくり、産業振興、3次救急医療施設への搬送時間短縮、企業誘致	
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	・各国・県道及び主要基幹道路の歩道整備、急カーブの解消	・通勤・通学時の安全確保、冬期における積雪・路面凍結の解消	